



残暑お見舞い申し上げます。

お品書き
【その巻】CODEレター VOL.18
【その式】プロジェクトNEWS

以上

CODE海外災害援助市民センター発行
〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL : 078-578-7744 FAX : 078-576-3693
e-mail info@code-jp.org URL <http://www.code-jp.org/>
郵便振替 : 00930-0-330579

いま、私たちに、私にできることは？

村井 雅清

CODE 海外災害援助市民センター 理事・事務局長

今年も、世界で唯一の被爆国として59回目の暑い夏を迎えた。広島市では今年から、世界109カ国・地域、611都市からなる平和市長会議と共に、「核兵器のない世界を創るための記憶と行動の一年」と宣言し、その実行の期限を来年の8月6日までの1年とした。また長崎平和宣言では、「アメリカ市民の皆さん、私たち人類の生存のために残された道は、核兵器の廃絶しかないのです。今こそ、ともに手を携えてその道を歩みはじめようではありませんか」と、はじめてアメリカ市民に呼びかけた。

また阪神淡路大震災を経験したここ被災地KOBでは、CODEの理事が各々個人的に関わり、今年の9月11日で3度目の「セプテンバーコンサート 平和への祈り」を開催するが、来年の1月17日で阪神淡路大震災10年を迎える。10年前の“あの時”、「最後の一人までもが助かって欲しい」と世界中の誰もが見守った。いま、あらためて人の命の尊さを自分の暮らしの中に刻み込みたい。

ところで『一万年の旅路』（翔泳社発行、ポーラ・アンダーウッド著、星川淳翻訳）という名著がある。これによると、人類は一万年前から歩き続けてきたなかで、その途中で他の集団（時には同じ人類ではなく、動物の場合もある）と出会ったとき、戦う意志のないことを示すためにすべての武器（当時は石槍など）を相手の前に放りだし、危機をしのいできたことが記されている。こうして本来人類は、実に見事な合意形成とコミュニケーションの手法を持っていたのだろう。「いま」を生きる私たちにとってはすばらしい財産である。さて、今年も昨年に続きCODE理事団体の一つであるコープこうべ・

平和企画委員会が毎年開催している「平和のつどい」に参加させて頂き、昨年12月26日に発生したイラン南東部地震後の救援活動やアフガニスタンでの取り組みを報告させて頂いた。兵庫県明石市にある第7地区のコープセンターでの集いでは、「今こそ周りの人に伝えたい 私の戦時体験」という冊子が配布された。その冊子では、疎開先で5⁺離れた学校まで通っていた話や主食の米が減らされ、お粥、雑炊、代用食として馬鈴薯、南瓜、さつまいも、とうもろこしの粉などで空腹を押さえ、育ち盛りの子どもたちには辛い日々であったことが語られていた。1950年生まれの私には戦時体験はない。小さい頃の食糧難の経験もない。ただ、私の兄は、2歳の時に死んだと聞いた。「栄養失調」だったそうだ。

いま、23年間の戦禍に見舞われていたアフガニスタンでは、学校にも行けない子どもたちが150万人もいる。首都カブールでは人口が増え、失業状態が悪化しつつある。帰還難民の人たちは、避難先のパキスタンやイランから祖国に戻ってきても仕事がないため、また難民キャンプに戻る人たちがあとを絶たない。さらにここ数年続く干ばつのため、食糧不足が始まっている。先に紹介した「私の戦時体験」が、いまそのままアフガニスタンでは繰り返されていることになる。

いま、私たちに、私にできることは「何だろう？」。59回目の暑い夏を過ごしながらかえてみたい。

「Think Globally, Act Locally and Act Globally」

ぶどうの木オーナーになりませんか

CODEでは2003年よりアフガニスタン支援として、甚大な被害を受けた首都カブールの北部にあるシャモリ平原のぶどう畑再建支援を開始しました。改めてその活動についてご紹介させていただきます。

シャモリ平原

1979年以内戦、2001年のアメリカ・イギリス軍の侵攻で大きな被害を受けました。タリバンと北部同盟の最後の激戦地となり、この戦闘でタリバンは住家を破壊だけでなく、命の水を供給する「カレーズ(地下水路)」も破壊し、生命の糧であるぶどう畑も焼き討ちにしてみました。

やっと故郷に人々が

タリバン政権崩壊から1年が過ぎた頃、期待と不安を抱きながら故郷を離れていた人々は各々の畑を耕し、家を建て直しながら生活を再開しました。



畑を耕す少女

「ぶどう・オーナー制度」について

「ぶどうプロジェクト」に取り組む家族は、現在288家族あり、各々ぶどう畑を所有しています。でも再建するには、家庭によって実状が違います。ぶどうの木は辛うじて生きているが水がない、肥料を買うお金がない、畑はあるけれども新たな苗を買って植えなければならない、畑の条件は揃っているが労働力がない、など状況はさまざまです。

一人はみんなのために、みんなは一人のために

そこで私たちは、このぶどう畑を再生させるために、協同組合のしくみを築いていこうと考えています。

日本では、生活協同組合に代表されるように、こうした活動は非常に活発です。すでに経験のある手法を活かしつつも、あくまでもアフガニスタンの生活文化にあったしくみを築いていきたいと願っています。

ぶどう基金

「ぶどうオーナー」になって頂く方には、一口3,000円(年

間)を支援して頂きます。拠出していただいた資金は、「ぶどう基金」として現地のシューラ(評議委員会)が管理し、ぶどうプロジェクトに使われます。

CODEではぶどう畑再生プロジェクトを行っているミール・パチャ・コット地域唯一の女子学校の支援も行っています。これは将来的には女子学校でぶどうの苗を育て、この地域へ還元していきます。そしてその見返りとして地域の人々がこの女子学校に机や椅子の修理などをするという地域ぐるみのぶどうプロジェクトになってもらえたらという願いです。しかし、水や女子学校であるために周囲を保護する壁の問題など課題はまだ山積しています。しかし、いつかはアフガニスタンの中でもモデルとなるような緑に囲まれた学校に、そして地域になってほしいと願っています。

ぶどうオーナー

一般会員 年会費：3,000円(一口)
何口でもOKです！拠出頂いた方には
会員証をお送りしております。



「ぶどう基金」へ

出資いただいたお金は288家族の自立のために使っていきます。基金の運営と管理はシューラで行っていきます。



会員証とぶどう新聞

日本とアフガンをつなぐ

ぶどう畑の再建の様子をお伝えできるよう、通信を発行いたします。

「ぶどうオーナー」へのお申込み・お問い合わせにつきましては、下記連絡先までお願いいたします。また「ぶどうオーナー」について、パンフレットも御用意しておりますのでお気軽にお問い合わせ下さい。

ありがとうございます7/1～7/31

- 会員・寄付者ご芳名(以下順不同・敬称略)**
- 一般寄付**
個人：市原崇行、成毛典子(以上東京都) 森田郁子(大阪府) 今井鎮雄、中谷勇一(以上兵庫県)
団体：NBカンパニー(京都府)
- 会 員**
正会員
個人：今井鎮雄(兵庫県)
- 賛助会員**
個人：灘山光子(千葉県) 小川泰子(京都府) 伊永勉(大阪府) 細谷祐司(奈良県) 鶴飼卓、飯塚節、上田耕蔵、岡崎博子、森脇慎也、江口節(以上兵庫県)
団体：阪神高齢者障害者支援ネットワーク、神戸ボランティアリーグッドウィルガイズ(以上兵庫県)

編集・発行 CODE海外災害援助市民センター
〒652-0801 兵庫県神戸市兵庫区中道通2丁目1番10号
TEL：078-578-7744 FAX：078-576-3693
e-mail info@code-jp.org URL <http://www.code-jp.org/>

CODE プロジェクトニュース

CODE海外災害援助市民センター
 〒 652-0801 神戸市兵庫区中道通 2-1-10
 Tel: 078-578-7744 Fax: 078-576-3693
 e-mail: info@code-jp.org
 URL: http://www.code-jp.org/

イラン地震救援プロジェクト（2003年12月26日～）

55. この数字は何を表しているでしょうか？7月終わりのバムの気温です。ものすごく暑い日が続いていると現地の友人からも嘆きのメールが・・・しかし、日本のような蒸し暑い55度を想像すると少し違うかもしれません。バムは砂漠地方特有の気候ですので、湿度が低いのです。そのためカラっとした暑さで朝のうちは問題ないようです。そして、バムの人々は日中12時ごろから16時ごろまでの一番暑い時は動きません。16時前後から人々がそろそろ活動を開始といった風にどこからともなく現れてきます。しかし、動かないとはいえ仮設へ移った人々はまだましな状況ですが、未だにテント暮らしの人々を思うと健康面が大変心配されます。



- 音楽教師養成トレーニング -

私たちがすすめる音楽教師養成トレーニングの様子が現地から届きました。サイド先生を真ん中にして、黒いスカーフを被った女性たちが真剣な様子で木琴をたたいています。サイド先生からは、中にはリコーダーも吹けるようになっている先生もいると嬉しい報告がありました。きっと、あと数ヶ月後にはバムの幼稚園で子どもたちが先生と一緒に歌う姿が見られるのではないかと期待をしています。CODEは先生方の音楽教室のためのコネックス（簡易コンテナハウス）の提供も行いますが、現時点ではまだ建設されていないため、あずまやや、テントを使って授業は行われているようです。



授業風景

～しあわせ運べるように～日本とイランの架け橋に

先日事務局スタッフ齊藤がバム地震報告会を神戸市の2つの小学校で行いました。1校目は「しあわせ運べるように」の作詞・作曲をされた臼井真先生が勤務される明親小学校の6年生です。そして2校目は昨年事務局長村井がバム地震報告会へ行き、「しあわせ運べるように」を聞いて感動し、このプロジェクトが生まれるきっかけとなった港島小学校です。2校の生徒の方々にバムの状況、子どもたちの様子、そして「しあわせ運べるように」のペルシャ語版を歌っている様子をビデオで見てもらいました。報告した後、生徒たちからいろいろな質問や感想が出されました。

メッセージ：・いつか日本に来て下さい。

- ・お父さんやお母さんを亡くしてつらいかもしれないけど、希望を持って生きてください。
- ・私たちに今できることはこの歌であなたたちを励ますことだけです。
- ・どうかこの歌を歌って、元の美しいバムに戻してください。

など、すばらしいメッセージをたくさん頂きました。バムの子どもたちにとって、遠い日本から自分たちのことをこんなにたくさん心配してくれている友だちがいるということが何よりの贈り物となることでしょう。

またバムの子どもたちが歌う「しあわせ運べるように」を聞いて感動して涙を流している女の子たちがいたことがとても印象的です。遠い異国の地と思っていた場所で同じ年齢の子どもたちが同じメロディで歌っているということに何か心に届いたのかなと感じました。

そして、最後に両校の生徒たちから日本語版「しあわせ運べるように」がバムの子どもたちに向けて歌われました。8月22日からイラン派遣される斉藤がバムの子どもたちへ届けます。子どもたちの喜ぶ顔を想像すると待ち遠しい気分させられます。そして、バムの子どもたちがこの歌を受け取った様子を持ち帰り、日本とイランの小さな架け橋のきっかけとなれればと願っています。

アフガニスタンプロジェクト（2002年7月17日～）

すでに新聞各紙で報道されていますが、懸念されていました大統領選挙が延期されると発表されました。治安が悪く、今月2日にはアフガン軍と旧タリバン政権の武装勢力が南東部のホースト州で衝突し、激しい戦闘になりました。旧タリバン政権側の死者数は40人～50人とも報道されており、ここ数ヶ月で最大規模の戦闘となる事態がありました。このような状況のため秋のCODEスタッフの派遣も見合わせています。

しかし、一方で私たちが支援をするカブール州北部ミールバチャコットでは、淡々と人々はぶどう栽培にいそしみ、カレーズのきれいな水に喜び、女子学校の壁も着々と進みつつあるというニュースも入ってきています。紛争が続く一方で、普通の市民たちは、自分たちの生活を取り戻すために確実に前へと進んでいるのではないのでしょうか。

今年のぶどうの収穫によって「ぶどう基金」から貸し付けを受けていた人々の返金も始められます。今後その基金をどのように使用していくかは現地の人々と共に考えていきたいと思えます。

現地で進められていた女子学校の壁が140m完成したと連絡が届きました。しかし、壁は一面のみで、あと一面が残っています。女子学校での苗植えは壁がなければ行うことはできません。「壁」というものに抵抗をもっていた私たちもこの習慣には従う他ありません。しかし、この壁で女子学生たちが外へ出て、苗植えができ、運動もできるようになります。

今後とも皆さまのご協力をよろしくお願い致します。

募金について

募金にご協力して頂ける方は、下記の郵便振替口座にて通信欄に「イラン地震支援」「アフガニスタン支援」とそれぞれ明記してください。なお募金全体の15%を事務局運営・管理費に充当させていただきます。

口座番号：00930 - 0 - 330579

加入者名： CODE

CODEの活動は、様々な方のご支援に支えられて行われています。すべての皆様にご報告を直接させて頂きたいのですが、物理的にも財政的にも制限があり、ホームページやメーリングリストなどを通して広くご報告させていただいております。ご理解のほどよろしくお願い致します。

当センターのホームページ <<http://www.code-jp.org>> にも同様のものをアップしております。

（以上編集：事務局）



今年のぶどう畑



女子学校の壁